

狂言学習：舞台稽古が始まりました（6年生）《NO.2》

11月16日（木）に、平之荘神社で、子どもたちは舞台稽古をしました。
 今まで、多目的室での練習でしたが、能舞台を使っの稽古で、しかも屋外の稽古です。参拝者が稽古の様子を観ながら境内を歩かれることもありました。
 いつもとは違う環境の中、どんどん演目を仕上げていっています。



『附子』（続き）



【山口先生より】
 「上手、上手。ほんまに！特に言うことはない。今のまま稽古してほしいと思います。」

【山口先生より】
 「おもしろいよ。おもしろいよ。声の通りも申し分ありません。」



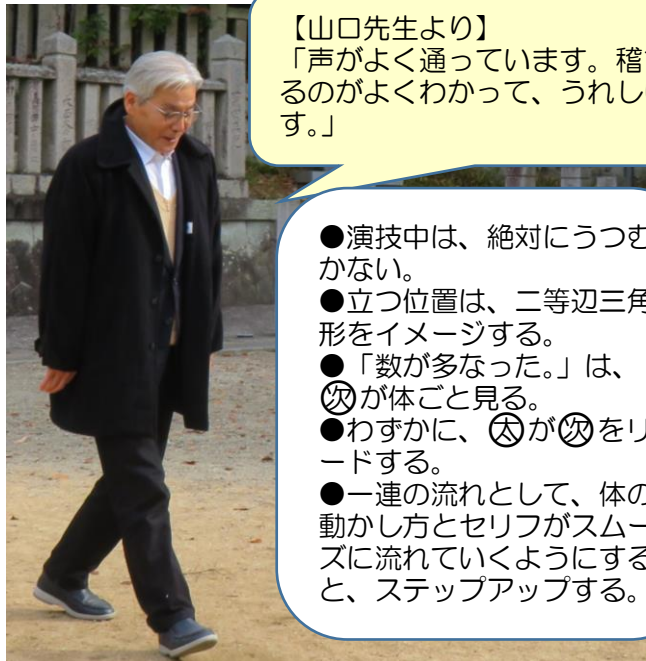
㊦「ヤ、はや附子を食いよる・・・。」のセリフは早く。
 「おのれ滅却しようぞ。」
 ドン。（足音を立てる）
 「そりゃ、滅却しよった。」
 ㊦ゆっくり顔を起こして（真っすぐに起こす）、次に㊦を見て、ゆっくり間を取って、
 「ああ、たまらんたまらん。」
 と言う。
 ㊦は、㊦の腕を上げるから、後で振り払うのがおもしろい。



【山口先生より】「上手、上手。君たち独特のテンポをもっていておもしろいよ。2回取り合いをするか。取って取られて、取って取られて。」



- 後見座から所定の位置に行く時は、顔は前を向く。(うつむかない)
- ⊕は、食べ終わった後は、扇子をさしながら行く。所定の位置まで来ると、真っすぐ見て、知らん顔をしておく。
- ⊖が、「や、附子が皆になった。」と言った時に、⊕は、を見る。
- ここからは、⊕は、⊖をからかう。
- 「真っすぐに申しあげよう」のところは、ピッと素早く向き。



【山口先生より】
「声がよく通っています。稽古しているのがよくわかって、うれしいです。」

- 演技中は、絶対にうつむかない。
- 立つ位置は、二等辺三角形をイメージする。
- 「数が多なった。」は、⊖が体ごと見る。
- わずかに、⊕が⊖をリードする。
- 一連の流れとして、体の動かし方とセリフがスムーズに流れていくようにすると、ステップアップする。



- ⊕は、どこまでが道で、どこからが家かを、自分でイメージをもっておくといよい。
- ⊕が、家の中に入って来て、「やいやい、両人の者、今、もどったぞ。」
- ⊖は、「やいやい」を聞いて、「そりゃ、お帰りなされた。」を言う。
- 観る人は知っているが、演じ手は知らないように演技をする。それが、お芝居のおもしろいところであり、難しいところである。



- ⊕と⊖には、主人を『しばけ』とは教えていない。主人の頭の直前で、止める。『しばく』と美しくない。
- ⊕と⊖には、主人に対する遠慮があるからおもしろい。遠慮しながらボンとするからおもしろいのです。
- 最後は、主人は⊕と⊖を追いかける。追いかける意識をもつ。